不知火海・球磨川流域圏学会誌
J. Jpn. Soc. Shiranuikai & Kumagawa Reg. Stud.
Vol. 13/14, No. 1, 2020, pp. 77-78.

【平成 31 年研究発表会発表記録】

隠れ念仏と坂本

山本隆英 [1)] *

1 坂本町西福寺住職　〒 869-6104 八代市坂本町鮎帰い 1145

江戸時代，旧薩摩藩と旧相良藩はキリスト教と一向宗（浄土真宗）を禁じた． 徳川幕府が宗教統制のために設けた「寺講制度」により，「宗門改め」が行われ，必ず仏教寺院の檀家門徒にならなくてはならなかった．相良領御法度集（図 1）の冒頭には，「切支丹宗門並び一向宗を修する事」とある．真宗信心の家は，表では一向宗以外の寺院の檀家門徒になり，内では秘密の「講」を組織して，真宗（一向宗）の信心を継承した．このことを指して「隠れ念仏」という．禁じた理由は，平等思想の浸透を防ぐことや，領主への抵抗，特に一向一揆を恐れたことにあり，財の流出を防ぐという目的もあったと考えられる．

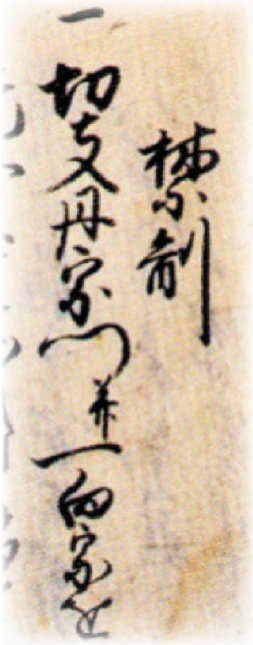

図 1　相良領御法度集
（人吉楽行寺蔵）

「講」のリーダーとして山田村伝助の名が知られているが，「伝助さん」は他の地区にもいる，いわゆる伝える人の代名詞である．球磨村の高沢では「とくよむ（徳右衛門）」で，取り調べを受けている． 山田村伝助も処刑され，山江村山田西河内にあるお墓が，伝助のものだとされている．伝助さんが捉えられるきっかけが，密告であったというのはいただけない話である．

一向宗（浄土真宗）は御禁制であったが，八代などの浄土真宗のお寺とつながり，信仰をつづける人たちがいた．いわゆる「隠れ門徒」である．

坂本の真宗のお寺である崇光寺（そうこうじ）と西福寺（さいふくじ）は，江戸時代より万江川と山田川の流域の講中とつながっていた．今でもお葬式に行く集落がある．それと，お取り越というのがあった．親鸞聖人の報恩講（親鸞聖人のご命日に，そのご恩に報いる集まり）を前もって行うもので，大体一週間ぐらい泊まり込みでお参りしていた．現在は一日で行っている．

崇光寺は，秀吉九州侵攻の際，命を落とした相良義陽の家臣，宮原城主の舎弟橘武冬が万江別府に一宇建立を開基としたもので，山江村の全域と人吉の一部とのつながりがあった．その後，坂本の合志野に移設したが消失したため，坂本駅近くの現在地に移った．西福寺は，山江村全域および五木の一部とつながりがあった．万江川流域のほとんどが何故坂本の二つの寺につながったのかは，地域の要望か，行政の振り分けか，あるいは寺側の都合なのか，まったく不明である．

これらの二つの寺は，この地域の講中が本願寺へ届ける懇志の中継や，門主押印のある名号や絵像の中継を行ったり，請われれば伝導も行っていた．

*Corresponding author: tel. 0965-45-3325, fax. 0965-45-3325

二つ寺へは御仏米が届けられてきた．人吉の山田地区は米どころである．戦時中や戦後，米を汽車で持ってくるわけにはいかなかったので，みんな５升づつ背負って山田から歩いて肥後峠を越えて，御仏米を持ってきてくれた．崇光寺に持ってくる人，西福寺に持ってくる人，20～30人がぞろぞろと持ってきてくれて，一晩，寺に泊まっていった．現在は一日だけとか，あるいは数人が泊まっていく．そういう関係を長い間繋いできた．現在でも，崇光寺と西福寺は，葬儀や仏事，報恩講や彼岸法会でつながり，葬式にいくところ，葬式にはいかないけれどお米が届くというところがある．

八代地方には，このような地域を超えたつながりを持つ四つのお寺がある．正教寺（しょうきょうじ，八代本町）．ここには親鸞聖人像が安置されている．この像は鹿児島から25年かかって運ばれてきた．薩摩が浄土真宗を禁止したため，この像も危なくなり，鹿児島―宮崎―熊本へと，約25年の歳月を経て八代に来た．人吉・球磨地方では，その泊まったところ泊まったところが，明治になってお寺になったところもある．球磨村の高沢とつながりがある安養寺（あんようじ）と，山江村全域とつながる坂本の崇光寺と西福寺である．

約300年間にわたって一向宗は禁止されたが，明治９年に信仰の自由が許されると，おおっぴらに交流ができるようになった．徳川幕府は仏教を国教として仏壇設置を強制したが，明治政府は神道を国教にすべく，「廃仏毀釈」策をとった．お寺は，人別帳を所有し，戸籍管理の役割をしていたが，その人別帳がそっくり氏子の名簿になっていった．政府は仏壇廃棄等を推し進めようとしたが，真宗勢力の抵抗で，仏壇は可としつつ，神棚設置を強制した．この時に，地方によっては，寺は徹底的に壊されていき，鹿児島では1616もの寺が消失したが，この隙間に真宗各派は教線を拡大していった．

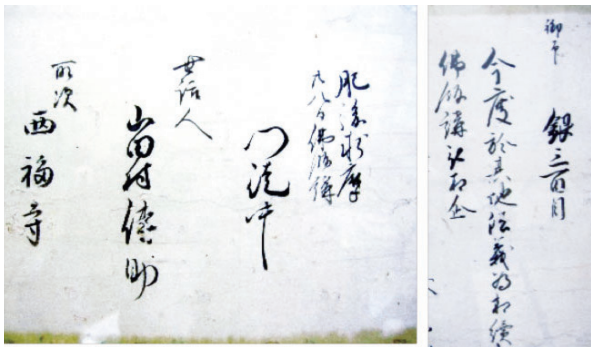

図２　本願寺受領証 安永６（1777）年

隠れ念仏がもたらしたものの１つは，差別の壁を抜いたことである．「仏飯講」に集まってきた人たちは農民が中心であったが，武士や町民も見られ，鹿児島の宮之城では被差別階層の人も集い，そのうちの一人，萬次郎なる人物は北薩地方のリーダーにもなった．もう一つは，地域の連帯や他所との連帯というものを築き，人や物を大切にする「土徳」を構築したことである（図３）．

図３　今なお続く「講」の集い
上：城内講中のお取り越 1996年１月30日
下:小山田講中 2018年春彼岸法会．後方の仏壇は，幕末に本願寺から下付された名号と蓮如上人像